

禪寺の庭に現れる光と陰影の景観的效果

Aesthetic Effect of Light and Shadows
on Traditional Gardens in Kyoto

川崎 雅史*・木下 正浩**

Masashi Kawasaki and Masashiro Kinoshita

1. はじめに

(1) 研究の目的

本研究は、日本の伝統的な意匠を再認識することを前提として、庭園や建築の変動要素の一つである光と陰影についてその景観的な効果を把握することを目的としている。とくに、その意匠が特化していると考えられる一つの対象として、京都の禪宗寺院の庭園を取りあげ、これまでの研究では整理されなかった日本の伝統的な外部空間における光と陰影を把握するものである。

(2) 研究の対象

研究対象については、調査研究の制約上禪宗寺院の発祥として著名な大徳寺をはじめ、京都の代表的な寺院庭園を取りあげる。具体的に対象とした庭園は、①慈照寺、②曼殊院、③大仙院、④高桐院、⑤龍源院、⑥瑞峯院の6つである。これらの庭園は、日本庭園の代表的な庭園様式である池泉式と枯山水式を含む。これらの禪宗庭園では、石組、植栽、白砂などの限られた数少ない要素によって、海や山などのスケールの大きな自然を見立てる象徴的な表現が特徴的になっている。これらの要素が変動の少ない静的な景をつくる中で、光と陰影は動きや変化を感じさせる極めて限られた要素である。

2. 庭園における光と陰影の景の抽出

庭園における光と陰影の景を観察してゆく上で、基本的な視点の一つになる光と陰影の基本構成と類型については、既往研究¹⁾に基づいて行った。

(1) 対象庭園と光と陰影の景の抽出

庭園景を収集するために、先述した6つの庭園において庭園鑑賞の視点場と成り得る地点(室内、屋外、縁先等)から網羅的に200例の抽出を行った。ただし、撮影は、秋期の晴天の9:00~16:00に行い、レンズは概ね人間の視野と一致する焦点距離35mmを用い、視線方向は景観の構成要素が判別できる範囲で意識的視野に任せた。

3. 庭園に現れる光と陰影の景観的效果

本章では、前章で収集した対象庭園の全ての景に対して、庭面、石組等の添景物、池、建築物の各要素ごとにできるだけ光と陰影の被写体やスクリーン等の構成要素が同じ組み合わせとなるものをまとめて整理し、以下に代表的な事例を提示して光と陰影の景観的效果について考察した。

(1) 庭面に現れる光と陰影

(a) 庭全体の均質な暗さを確保する陰(写真1)

寺院の屋根は、庭内に差し込む直射日光の大部分を遮断し、大きなまとまりのある陰影を生み出す。特に、写真1のような北

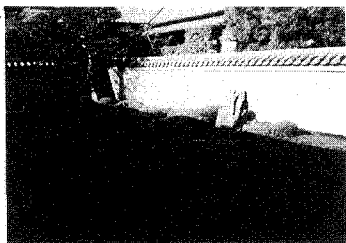


写真1 屋根がつくる陰

庭では、屋根の影が庭面の大部分を覆い、均質な暗さが観察された。

(b) 砂紋に取りつく光と陰(写真2)

日本庭園は一般に大自然の縮景を意図して造られているが、枯山水式庭園で見られる一面に敷き詰められた白砂は大海を表す。白砂が敷かれる庭面では砂紋の砂が盛り上がった部分に取りつく線的な陰が観察できる。一般に白砂に描かれている砂紋は凹凸

キーワード：景観、公園・緑地

* 正会員 工博 京都大学助手 環境地球工学科

** 学生員 工学 京都大学大学院 環境地球工学専攻

〒606-01 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-5122 FAX 075-753-5916

の縞模様を構成しており、大海に漂う波を表現している。この一連の砂紋につく陰と光の部分の線的な対比が強調され、見立てる波の立体感

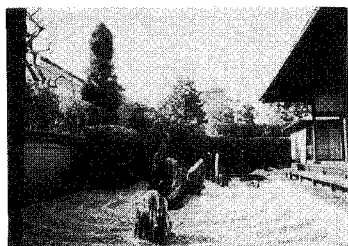


写真2 砂紋にとりつく光と陰
(瑞峯院)

がより強調され連続的な波のラインが形成される。

(c) 庭面に現れる疎らな光と影(写真3)

写真3のように、周囲が樹木や垣根に覆われた庭面では、庭一面に植樹の疎ら模様の影が観察できる。このような木々の合間からの木漏れ日がシンプルな構成のスクリーンに彩りや微妙な動きを演出する。

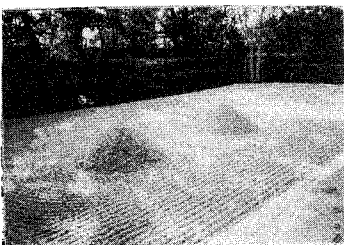


写真3 庭面に現れる疎らな
光と影(大仙院)

(2) 添景物に現れる光と陰影

(a) 添景物を照らす光(写真4)

蔓殊院の庭園では、庭の中央に亀島として植えられた一本の松が、庭園を構成する主要な視対象となっている。周囲を覆う



写真4 添景物を照らす光
(蔓殊院)

樹木の中で、松にのみ直射光が当たり、スポットライト的な光と陰影の効果が観察できる。

(b) 添景物(砂盛)に取りつく陰(写真5)

慈照寺の向月台のように、庭園の主要な添景物である砂盛は、40,50cm程の高さのシンプルな円錐形をしている。この曲面には、写真5のような輪郭の明瞭な光な直線的な陰が取り付く。これによって、砂盛りの立体感が強調される。

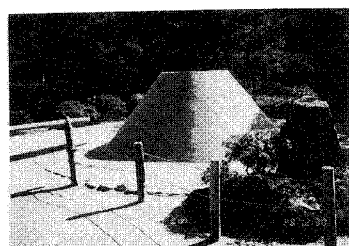


写真5 添景物に取り付く陰
(慈照寺)

(3) 池に映る鏡映りの景

(a) 周囲景の鏡映り(写真6)

写真6のよう

に、中央の大きな池に対岸の植栽が広い範囲にわたり鏡映りしている。このようなある程度の広さを持った池は、建築物や植



写真6 周囲景の鏡映り
(慈照寺)

栽などの周囲を大きく取り込んで水面に映し全体として雄大な静けさを表す景を構成している。

(b) 主要景物の鏡映り(写真7)

水面に生じている大きな影の部分に建築物(銀閣)の像が鏡映りしており、実物と水面の像が上下対称に配置されている。こういった主要景物が水面に鏡映りすることにより、その景物が単独に存在する時に比べて構図上の面積も大きくなることから、景物が強調される。

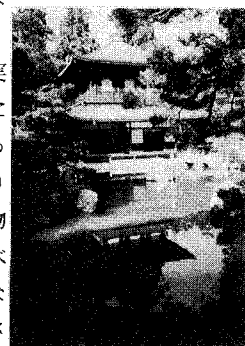


写真7 主要景物の鏡映り
(慈照寺)

(4) 苑路に現れる光と陰影

(a) 樹間に現れる光(写真8)

樹木に囲まれた薄暗い苑路において、樹木の幹や枝の合間から光の差している空間が見えている。木の幹や枝に暗い陰が取り付き、明確なフレームを構成しており、そこから見える景を引き立てている。

このような地点を意図的に配置することにより、回遊式庭園の中における風景鑑賞の視点場を設定している。

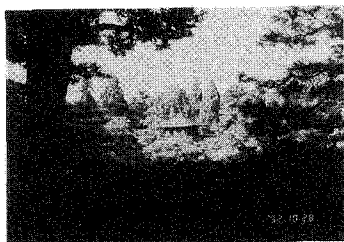


写真8 樹間に現れる光
(慈照寺)

(5) 建築物に現れる光と陰影

(a) 縁に現れる光と影 (写真9)

縁は建築物の周囲に取りつけられ庭園鑑賞の視点場であるが、その板面は磨かれた平面であり特徴的な影を映すスクリーンになる。とくに、柱や欄干などの幾何学的な影が映り装飾を施し、縁面に冴えやめりはりを表現する。

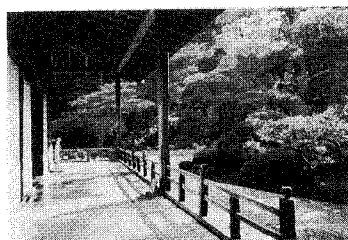


写真9 縁に現れる光と影
(曼殊院)

(b) 開口部の光どり (写真10)

写真10のように、室内から外の庭を眺めるとその境界にある建具や柱などの直線的な輪郭がフレームとなって外庭の景を縁取る。内部が暗

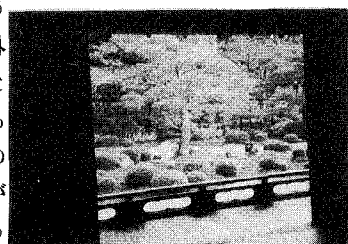


写真10 開口部の光どり
(曼殊院)

い陰にあって、明るい空間が明瞭に縁取られる様子は、映画のスクリーンのような光の視点場を形成している。

(6) 樹木・植栽に現れる光と陰影

(a) 植栽に現れる光と陰影 (写真11)

庭園の周囲に植えられている植栽に深い陰が取り付きいている。刈り込み植栽の凹凸面に取り付く光と陰影の諧調は、見立てる山々の肌理を表現し、陰と光の複雑な組み合わせにより、山のテクスチャが強調されている。



写真11 植栽に現れる光と陰影
(龍源院)

(b) 樹木のシルエット (写真12)

光源が庭園を取り囲む樹木の背後に隠れ、シルエットが浮かび上がっている。主景要素である建築物(銀閣)も樹木の陰影の中に埋もれ、シルエットとして浮かび上がる樹木はスカイラインを形成し、境界を強調している。



写真12 樹木のシルエット
(慈照寺)

(7) 参道に現れる光と陰影

(a) 参道に現れる陰 (写真13)

庭園にはその境界部である参道に高い樹木を植えることにより、薄暗い陰の空間が生まれている。これは、庭園の内部空間と外部空間との隔絶を強調する効果を与えている。

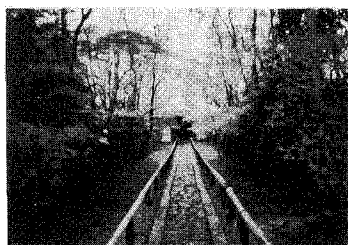


写真13 参道に現れる陰
(高桐院)

(b) 門に現れる光 (写真14)

庭園に至る参道において、前方の門がフレームとなって景が切り取られている。前方に一本の道が伸び、その両脇に刈り込みが植えられているという奥行きを感じさせる空間における視線の焦点となる位置に、フレームで景が区切られアイストップを構成

している。

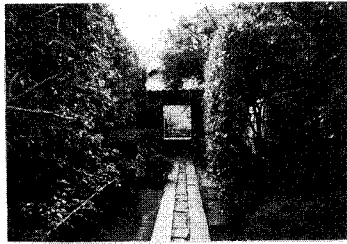


写真14 門に現れる光
(高桐院)

5. 結 論

本章では、日本庭園に見られる光と陰影が特化した景を庭園の構成要素ごとに抽出した結果、それらの景に現れる固有な光と陰影の景を観察することができた。ここで観察できた庭園の各構成要素別に現れる光と陰影を列挙すると表1から表7になる。そして、庭園の特徴的な光と陰影の景観的な効果は次のように整理することができる。

(1) 「均質な輝度の空間を形成する」

建築物の屋根や庇の長い影によって、均質な陰の空間が生み出され、抽象的な見立ての庭に適する均質な空間が作られている。

(2) 「庭面のテクスチャに彩り、深み、柔らかさを与える」

白砂や苑路の面に、木々の影が映りテクスチャに彩りが施される。さらに、苔などには柔らかな影が映り深みや柔らかさが強調される。

(3) 「見立てる景物の立体感を強調する」

白砂や石組、砂盛に陰が取り付きそれらの立体感が増している。また、樹木には深い陰が見られ、見立てる山の肌理を強調する。

(4) 「庭園内の主要景物を引き立たせる」

庭園の中の主要な添景物にスポットライトのように光が当たり暗がりとなった背景の樹木の中に一際映え、引き立てられている。

(5) 「縁に冴えやめりはりをつける」

縁や縁先では、欄干や開口部の幾何学的な影が映り、空間に冴えやめりはりをつける効果を及ぼしている。

(6) 「視点場から縁どられた庭景が見える」

樹木で覆われた苑路における木々の間や室内の

障子といった暗い陰の空間の中に形成されたフレームによって向こう側の明るい空間の景が切り取られ鑑賞される。

(7) 「庭園に微かな動き、静けさを強調する」

風が吹くことにより陰影が揺らぎ、変化のある景が見られる。

(8) 「庭園の境界を強調する」

参道や深い陰影が現れ、外部空間との境界を強調する。

表1 庭面に現れる光と陰影の景観的效果

庭園の構成要素	光と陰影の種類	主な景観的效果
①庭全体に現れる陰	屋根・庇がつくる陰	均質な輝度の空間を形成する
②白砂面に現れる光と陰	光と陰の線的な対比	見立てる波の立体感を強調する
③白砂面に現れる光と影	樹木がつくる光と影の造形模様	庭面のテクスチャに彩りと動きを演出する
④苔面に現れる光と陰影	苔面の凹凸面がつくる光と影の複雑な調子	庭面のテクスチャに深み・柔らかさを加える

表2 添景物に現れる光と陰影の景観的效果

庭園の構成要素	光と陰影の種類	主な景観的效果
①添景物を照らす光	主要景物を照らす局所的な光	主要景物を引き立てる
②添景物に取り付く陰	砂盛りに付く陰	見立てる山の立体感を強調する 縁との境界線をつくる
③添景物に取り付く陰	石組に取り付く陰	見立てる島の立体感を強調する

表3 池に現れる光と影の景観的效果

庭園の構成要素	光と陰影の種類	主な景観的效果
①水面に映る影	樹木の鏡映り	静的な印象と微かな動きを表現する
②水面に映る影	主要建築物・景物の鏡映り	主要建築物・景物を強調する

表4 苑路に現れる光と陰影の景観的效果

庭園の構成要素	光と陰影の種類	主な景観的效果
①苑路に現れる光と影	樹木がつくる光と影の造形模様	路面のテクスチャに装飾を加える
②樹間に現れる光	樹木のすき間にできる光	光の視点場をつくる 風景のフレームをつくる

表5 建築物に現れる光と陰影の景観的效果

庭園の構成要素	光と陰影の種類	主な景観的效果
①縁に現れる光と影	柱・欄干がつくる光と影の幾何模様	縁面に冴えやめりはりをつける
②開口部の光	窓・引き戸の開口部で縁取られる明瞭な光	光の視点場をつくる 風景のフレームをつくる
③開口部の柔らかな光	障を通した柔らかな光	庭園景を柔らかく映す

表6 樹木・植栽に現れる光と陰影の景観的效果

庭園の構成要素	光と陰影の種類	主な景観的效果
①樹木から漏れる光	樹木の隙間から漏れる光	かすかな光の変化を表現する
②植栽に現れる光と陰影	刈り込みの植栽の凹凸面に付く光と陰影の調子	見立てる山の肌理を表現する
③樹木のシルエット	周辺樹木のシルエット	凹凸性を形成し境界を強調する

表7 参道・門に現れる光と陰影の景観的效果

庭園の構成要素	光と陰影の種類	主な景観的效果
①参道に現れる陰	樹木がつくる薄暗い陰	外部空間との隔離を強調する
②参道に現れる陰影	刈り込み低木のつくる線的な影	道の空間を分節する
③門に現れる光	門枠を縁どる光	道のアイストップをつくる

謝辞

本研究を進めるに当たり、調査分析に多大な協力を頂いた当時大学院生であった荒川英司氏（現在JR東日本勤務）に感謝の意を表します。

【参考文献】

1)川崎雅史・堀秀行・佐佐木綱：日本の伝統的空間に現れる陰影の意匠性に関する研究,土木学会論文集IV-18, No.458, pp.121-127, 1993.